

尾ノ上の風

第17号



学ぶ きたえる 助け合う

文責:校長 村上 正祐

令和2年、3学期がはじまりました！！

新年おめでとうございます。

本年もどうぞよろしく願いいたします。

昨年は、ご家庭や地域の皆様のお力で尾ノ上小学校は無事に令和元年を終えることができました。ありがとうございました。本年も昨年同様にお力添えをいただきたく、よろしく願いいたします。

さて、13日間の冬休みが終わり、1月7日に始業式を迎えました。

今年の3学期始業式は、例年になく暖かい朝でした。この日は、学期の始まりに合わせて、PTA 見守り運動でご協力いただける方々が、通学路に立って指導していただきました。また、熊本市全市一斉の挨拶運動もあり、吉田PTA会長と教育委員会からもお二人参加していただいて本校職員と共に正門と東門に立って元気に登校してくる子どもたちを迎えました。

始業式では、今の学年で登校するのは50日余りであることを伝え、50日を「今さら」とあきらめて捉えるのか、「今から」「今なら」と決意したり、前向きに行動したりと捉えるのかによって、3学期の過ごし方が変わるという話をしました。

4月から進学・進級することを見据えて、3学期を充実できるよう過ごしてほしいと思います。



元気に登校する子どもたちを正門で迎える教育委員会の皆様と本校職員



一斉に松明で点火する様子（上）と勢いよく燃える様子を見る子どもたち

どんどや 天を焦がす

尾ノ上小 PTA 主催のどんどやの行事が、13日成人式の日、錦ヶ丘公園で行われました。

他の地域でもどんどやが行われていますが、近年は地域住民の方の高齢化や場所、地域の理解が得られず、どんどやが開催できなくなっている地域も出てきております。

そのような中、尾ノ上では PTA が主体となって進めて下さっており、防災クラブなどの方々のご協力もあって開催することができています。尾ノ上には地域力があり、ありがたいと思います。

この日、6年生は段ボールなどを運ぶ作業をした後、公園に集まり、点火式に参加しました。

式では、6年代表の児童が挨拶をした後、各クラスから数人が代表で松明をもち、一斉に点火しました。点火されるとたちまち、勢いよく火の手が立ち上がり、大きな歓声があがりました。

今年1年、無病息災で過ごせることを祈り、いい1年のスタートが切れそうな行事になりました。

お知らせ

令和2年度より学校徴収金を口座振替により集金させていただくことになっています。まだ、学校徴収金口座振替依頼書を提出されていないご家庭があります。22日までに必ずご提出ください。

こんにちは！お仕事&授業拝見28 2年1組算数 河野先生編

○ 河野先生の授業を参観しました。授業を見ていいなあと感じたのは、

①子どもと先生との授業中のルールが守られ、学習する雰囲気がつくられている。②子どもに黒板電子や黒板が開放され、子どもが説明活動する場がある。③実物投影機と電子黒板を使った提示、黒板のアナログ的な提示のバランスがよい。④先生の話すスピード、声の大きさがとても聞きやすく、しゃべりすぎていないといったことです。

授業では、はじめに教科書のさし絵の星空を映し出し、これを正しく数えるように子どもに投げかけるとあまりの星の多さに子どもたちは驚きの声をあげましたが、数えるのが大変そうだと思うせうまい提示でした。

その後、どのように数えるかを考えさせ、10のまとまりで数える、色別に数えていくという考えが出されましたが、必ずどちらの方法ですか自分の立場を明らかにさせていました。小さいことを徹底することは大切です。

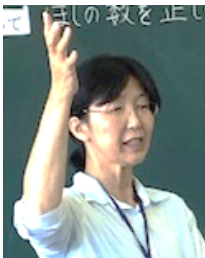
数える活動では、時間延長が2回ありましたが、子どもたちが自分の決めた方法で数える活動の時間を確保していました。だからこそ、色別に数えていた子どもたちは大変さが分かり、途中でまとまりごとにまとめていく方が効率的であることを体感できたようです。

授業を見ていて、落ち着いた学習雰囲気のクラスだと感じました。子どもと先生との学習のいい関係が感じられました。例えば、囲んだ○に先生が番号を打っていくと、自然と子どもが数を数え出していったことから分かります。

先生が行う動作に、子どもたちが反応する態度が育っており、普段の授業から子どもがお互いの発表しっかりと聞く姿勢が育っているなあと感じた授業でした。



子どもたちに活動させて
クラス全員の注目を集める



河野 真理子 (かわの まりこ)先生 尾ノ上小6年目

【河野先生にインタビュー】指導で心がけていることは何ですか。

子どもたちが、すぐにあきらめてやめてしまうのがもったいないなあと思います。

自分のやるべきことは自分で乗り越えていくような力をつけさせたいと思っています。

こんにちは！お仕事&授業拝見29 2年3組国語 中村葉子先生編

中村葉子先生の授業を参観しました。

①教師の話す張りのある声と明瞭さ、表情にゆとりを感じたこと

②学習へ向けさせる手立て、ノート指導の積み上げなどを意識して継続していること

③具体的な活動を通して気づかせる学習を準備しておられること

などが印象に残りました。

教室に入ると、掲示された子どもたちの作品に、丁寧に作品票が貼られ温かいコメントが入っていて、教室設営にあたたかみを感じました。

授業では中村先生の表情が良いなあと思いました。特に、子どもたちの机の間を回りながら、個別に対応されるときの先生の表情です。子どもたちも安心して先生に話しかけたり、尋ねたりすることができていました。

授業では、子どもが使っているワークシートのプリントを拡大したものを準備して、視覚的わかりやすくする支援があり、「どの子どもにもわかりやすく」ということを心がけておられるようでした。

また、学級全体で活動したことを出し合う場面では、よく手を挙げる子どもたちが多くに驚きました。さらに、子どもが発表すると周りがそれにきちんと反応を返す友だちが多く、感心しました。そのほか、発言した発表した子どもの名前カードを黒板にどんどん貼っていかれましたが、とても子どもたちがやる気になる方法だなと思います。

子どもの目を見ながら、
言葉かけをする中村先生



中村 葉子 (なかむら ようこ)先生 尾ノ上小2年目

【中村先生にインタビュー】どうして先生になろうと思ったのですか。

自分が通っていた小学校は田舎の小さな学校でした。5年生のときの担任の先生みたいになりたいなと思ったことがきっかけです。自分が交通事故にあった3年生のときに、寄り添ってくれた先生で、自分もそんな先生になりたいなあと考えたことがきっかけです。